
また会える(リュウ×アイリーン&呉葉)

枯葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また会える（リュウ×アイリーン＆呉葉）

【Nコード】

N1482B

【作者名】

枯葉

【あらすじ】

龍剣伝と、NINJAGAIKENを混ぜくってみました

数年前の事件以来、夢に一人の女性が出て来る。

一面の花畑、自分と彼女の間に流れる細い川。

夢の中で、彼女は黙ったまま、優しい笑みを浮かべ自分を見つめる。守る事が出来なかった、今は亡き幼なじみ。

「呉葉、すまない…」

龍が苦悩に満ちた表情でそう言うと、彼女は悲しそうな顔をする。その目は彼を責めていない、むしろ悲しまないでと言っている。

・・・毎回そこで目が覚めるのだが、今日は違った。

彼女が向こう岸から、川の上を歩いて来たのだ。と、同時に呉葉の姿が淡くなって行く。

「また…」

彼女が言い、微笑む。そして消えた。

「呉葉？」

「リュウ？」

声がして、目が覚めた。いつものベッドの上。

「！アイリーン…」

龍の顔を覗きこんでいたアイリーンは、ベッドに腰掛けて首を傾げる。

「夢を見ていたの？クレハって何かしら、日本のもの？」

龍は首を傾げるアイリーンに向かい、寂しそうに微笑むと

「守れなかった…」

と呟いた。それから、龍はかいつまんで呉葉の事を話した。そして、夢の事も。

アイリーンは黙って聞いていたが、話しが終わってすぐ口を開いた。

「龍、相談したい事があるの」

「うん？」

「私太つてもいいかしら？」

「???」

リュウは訳が分からず一瞬きょんとするが、すぐに頷いた。

「君は君だ、構わない」

少し肩を落とすアイリーン。

「張り合い無いわね、まあ貴方ならそう言うと思ったけど」

「？」

アイリーンがくすつと笑う。

「実はある人のお陰で自然と太らされてしまうのよ、困ったわ」

龍は眉間に皺を寄せる。

「何だと、どんな奴だ？」

「顔は分らないの」

「君が相手の顔をつかめないとはいな…」

アイリーンは元CIAだ。余程のてだれなのか。

「何せ、お腹の中にいるんですもの」

「！アイリーン…」

目を見開く龍を見て、アイリーンは楽しそうに笑う。

「貴方の話を聞いて思ったわ、きっと女の子じゃないかしら。

もしそうだったら名前…そうね「クレハ」…いい響きだと思うわ。

男の子だったら、

貴方のお父様の名前「ジョウ」にしようと思ってたんだけど。

本当どっちかしら、楽しみね」

アイリーンの話を聞きながら、

そうだったのか、と龍は不思議と納得する自分に気が付いた。

この上ない幸せな報告に、

龍はただアイリーンを力強く抱きしめるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1482b/>

また会える(リュウ×アイリーン&呉葉)

2010年10月10日03時33分発行